

平成19（2007）年9月10日 定例会質疑
子ども読書のまち推進事業について

No.88 灰垣和美議員

1点、ご質問をさせていただきます。国の教育研修指導事業の一環である子ども読書のまち推進事業についてお伺いいたします。

この事業の概要と取り組むことになった経緯、それから目的、そしてこの事業を通して今後どのように計画を立てて、どのように推進をしていこうと思っていられるのか、よろしくお願いいたします。

No.89 学校教育部長(北口哲)

議員お尋ねの、子ども読書のまち推進事業の概要と経緯等についてのご質問にお答えいたします。

これは、大阪府を通じて募集のあった2年間の文部科学省の委託事業でありまして、まず全国10市町村を対象に、子ども読書のまちとして指定するものでございます。この事業は、国の会議と連携しつつ、学校だけではなく地域や家庭が一体となり、町全体で子どもの読書活動に取り組むモデル的な事業という点で、教育委員会の構想と合っておりましてため強く希望いたし、8月になって内定通知を受けたものでございます。

この事業を通しまして、子どもの読書離れを防ぎ、すべての学習の基礎となる読書力や国語力の向上を図ることをさらに推進してまいりたいと考えております。具体的な取り組みといたしましては、3点考えてございます。

まず、1点目は、子どもや保護者、市民などによる推薦をもとにいたしまして、みんなが選んだ子ども読書のまち高槻推薦図書100冊を選定し、それらを活用して読書感想文コンクール等の読書活動の充実に向けた取り組みを進めてまいります。

2点は、子どもたちの読む・調べる習慣の確立に向け、地域人材の協力によりまして、読む・調べる出前講座を全校が活用し、子どもたちが読書に意欲的に取り組むきっかけとするとともに、専門的な知識や技能を学ぶことで各校における読書指導を支援していくことを考えております。

3点目は、教職員や保護者、市民を対象としたイベントとして、子ども読書フェスタを開催し、子どもの読む・調べる活動の大切さを知らせるとともに、調査研究の成果を広め、全市的な取り組みを推進することによりまして、子どもたちの読書習慣の確立を目指すものでございます。

次に、子ども読書のまち高槻の推進体制でございますが、私ども学校教育部はもちろん、教育委員会一体となりまして高槻市学校図書館運営協議会、高槻市教育研究会、保護者地域ボランティアの代表、さらに有識者を加えて構成する子ども読書のまち推進委員会が中心となって事業を進めてまいりたいと考えております。いろいろな機関や立場の方々と連携することにより、学校だけではなく市全体で読書に親しむ土台づくりができたとき、子どもたちにとって生涯学び続ける資質や能力、意欲を高めることができるものと確信いたしております。よろしくお願いいたします。

No.90 灰垣和美議員

今、お聞きいたしまして、まず最初に、10市町村の中の1市ということで、強く希望してこの事業をする、取り組むということになったこと、まず、それに敬意を素直に私はあらわしたいと、このように思っています。

3年前のちょうど9月議会でしたけれども、高槻を読書の町にという非常に大きなテーマを掲げて一般質問をさせていただきました。昨年の2月に、私が顧問を務めさせていただいているボランティアグループがあるんですが、地元の小学校に87冊の――この推薦図書ではありませんが、100冊には満たませんけれども、図書の寄贈をさせていただきました。そういったことも含めて今回の事業が、私が求めるものとする意味で合致するというのも含めて大いに期待しているということをまず申し上げておきます。その上で、本会議場ですので何点か私の考えを申し上げまして、今後の推進に役に立てていただければなということで発言をさせていただきます。

まず、1つは、答弁にありました、読む・調べる習慣の確立ということですが、調べるということがちょっと私は気になりましたもので申し上げたいんですけれども、今、非常に情報がはんらんしている時代になりました。読書離れ、活字離れというのも非常に懸念されているところですが、その背景にこの情報のはんらんというのがあるというふうには指摘されるのは、皆さんご承知のとおりです。

これは劇作家の山崎正和さんがこういうふうには言っているんです。体系的な知識から断片的な情報へと流れる時代に入ってきた。生きた樹木のように有機的なまとまりを持つ知識とは異なって、情報は断片的、即時的で、絶え間なく生まれては腐敗化するイメージにほかならない。したがって、この知識から情報への流れは、読書離れだけではなくて、より根本的なところで教養の危機を到来させ、人間存在の希薄化を招致すると、このようにおっしゃっています。また、これはフランスの科学者ですが、情報科学は、情報をもたらす限りにおいては貴重であると。しかし、情報科学がもたらすのは、人を小ばかにしたような急速冷凍したコミュニケーションでしかありませんと、非常に言い得て妙だと思って紹介させてもらったんですけど、人を小ばかにしたような急速冷凍したコミュニケーション。読書というのは、前回も一般質問をさせてもらいましたけれども、読書経験がある意味では人生経験の縮図をなすといったぐらい、読書経験というのは非常に重要であると私は思っています。読者と作者の対話、コミュニケーションがここにあるということで、この急速冷凍したコミュニケーションとは違うコミュニケーションがここには生まれてくるというふうには私は思っています。

調べるということが読書をする中で興味を持ったり疑問を感じたり、そういった中から調べようといったことが出てくるのであって、指1本で情報が収集できるようなこの時代にあって、この辺をしっかりと精査しながら取り組んでいただきたい、これが1点目です。

2点目は、本市では読書活動の推進ということで、私の挙げる限りでは、朝の読書運動とか、また子ども読書推進計画も策定されましたし、図書館も非常に充実しているというふうには私は思っています。また、ブックスタートも実質スタートをしていただきましたし、図書館等の出前講座、こういうのに積極的に取り組んでいるというふうには私は思っています。

ご答弁にありましたけれども、子ども読書のまち推進委員会というのが中心になるわけですが、既存

の今までの読書活動推進の事業と申しますか、それらを一つ一つ精査をして、必要なところは見直しながら、また連携をしながら本当に子ども読書のまち高槻の構築に向け努力をしていただきたいと思っています。

3点目と申しますか、単発的にこの事業が終わらないように。実は、朝の読書運動を3年前に提案させてもらいましたが、小学校と中学校が41校と18校ですか、全校が実施しているというふうに報告がなされているはずですが。朝の読書運動推進協議会では2万5,000校のうちの59校ということになるんでしょうけれども、実は、千葉の林公教諭や大塚笑子教諭が求めている朝の読書運動という4つの定義を守られて、この朝読が実施されているのは、まず高槻ではそれほどありません。だから、この推進事業をすることが目的にならないように、冒頭の説明にもありましたけれども、本当に読書活動を子どもたちだけでなく市民全体が読書のよさ、重要性を再認識できるような事業であっていただきたいというふうに申し上げておきます。

そういった意味で、読書というキーワードが本市のコンセプトに育つような、真に読書のまち高槻の構築に向け頑張ってくださいというふうに思っています。もし、ご答弁がございましたら、よろしくお願いいたします。

No.91 学校教育部長(北口哲)

今、灰垣議員から要望ということで、3点にわたっていただきましたが、冒頭おっしゃられました、いわゆるインターネットが中心となった今の時代は、たくさんの情報があふれております。この読書というのは、先ほども答弁で申し上げましたように、子どもたち、我々もそうなんですが、いわゆる言葉を学んで感性を磨いて、あるいは表現力を高めて創造力を豊かにしていくという観点からも、非常に大事な活動だと考えております。また、それらをもって情報活用能力の基盤というふうなことも考えられますので、今、ご指摘いただいた点を念頭に組み込んでまいりたいと思っておりますので、ひとつよろしくお願いいたします。